

韓国実習での学び

文教育学部人文科学科3年

武末 まりや

1.参加の動機・目的

私がこの実習に参加したそもそもの目的は、単位習得のためという淡白なものでした。震災によって中止となった別の実習の代替措置としてこの実習が実施されることとなり、実習の単位をまだ取得できていなかった私としては、望んで参加するというよりも、参加しなければという半ば義務のような気持ちで申し込みました。しかし、いざ事前説明会に参加し先生の説明を聞いてみると、海外でレベルの高い授業を受けたり異文化交流をしたりすることが、大学のプログラムの一環としてという非常にアクセスしやすいところでおこなわれることに大きな魅力を感じました。この実習が自分にとって刺激的でまたとない機会だと思い、参加しなければという気持ちから、ぜひ参加したいという気持ちへと変化しました。そして次第に、せつかくのこの機会を無駄にしないよう、この実習に参加することによって、英語でコミュニケーションをとることに対する抵抗が少しでも減って、同時に韓国語を使ったコミュニケーションが少しでもできるようになれば、と思うようになりました。語学留学の経験がまったくない私にとっては、心配なことや不安なこともたくさんありましたが、ただ単に単位習得のためだけに3週間を捧げるのは時間ももつたないと思い、海外生活という初めての体験を通してたくさんのものを吸収して日本に戻りたい、という気持ちを持ってこの実習に臨みました。

2.成果

2.1 多文化交流実習 I

午前の授業では、ふたつある科目から、日本人講師による **International Political Economy and East Asia** という科目を選択しました。もう一方の授業は **International Marketing** という科目でしたが、どちらも私の専門ではない分野かつ英語による講義である以上、先生が日本人であるほうが聞き取りやすだろうと思い、前者の授業を選ぶことにしました。

さっそく授業を受けてみると、先生のレクチャーは思っていた通りゆっくりと綺麗なアクセントつきで喋ってくださるため、とても聞き取りやすいものでした。肝心の授業の内容はというと、教科書やスライドにそって、国際政治経済学の基礎から、現代の金融危機、ひいては東アジア経済の今後の展望についてレクチャーを受けたのち、先生が設定したそれらに関するいくつかの問いをクラス内でディスカッションするというものでした。これからもわかるように、授業は決してやさしいものとは言えず、私は正直ついていくことに必死でした。授業時間の3時間のうち、前半は先生のレクチャー、後半はそのレクチャーを踏まえた上でグループディスカッションをおこないましたが、もちろんすべてが英語によるものであったため、常に集中して聴いていないと、追いつけなくなったり、すぐに理解できなくなってしまうたりします。とは言っても、毎回の授業はシラバスに沿って進められた上、クラスメイトのひとりのインターネットに強い学生が、授業のスライド資料などを載せたサイトを作成してくれたおかげで、予習がやりやすく、とても助かりました。

授業は双方向性を重視していて、それにのっとり、クラスメイトは意欲的な人ばかりでした。先生自身も学生の質問や意見に対して非常に積極的で、そういった意味ではとても恵まれた環境で勉強ができたと思います。ですが、肝心の私自身は、やはりほかの学生に比べて英語に不自由なことが自覚できて、とても苦しみました。自分の考えていることや尋ねたいことをうまく英語にできないことがくやしくて、授業後に落ち込んでしまうこともしばしばありました。しかしそんな状況だからこそ、人一倍頑張らなければ、という意識を持つことができました。結局最後の授業まで、ディスカッションで自分の納得のいくまでのふるまいができたと思うことはありませんでしたが、それでも途中で放棄することなく最終回まで授業に出席し、レクチャーを受けディスカッションに参加したことによって、少しは自分のものとなるものがあつたのではないかと思います。日本国内の女子大で学んでいる私にとって、海外で、英語を使って、男性もいる中で授業を受けるという経験は、本当に貴重なものでした。授業内容についても、最後に行われたテストでも思った以上の良い成績をとることができ、十分理解できたと言えます。

2.2 多文化交流実習Ⅱ

午後の授業では、ふたりの韓国人の先生による韓国語の授業をそれぞれ2時間、1時間ずつ受けました。私は今年の前期の授業において朝鮮語初歩を履修していて、ハングル文字が多少読める程度の知識はあつたため、最初のクラス分けテストによって下から2番目のクラスに振り分けられました。

前半の2時間は教科書に沿った文法を中心とした授業でした。授業はほとんど韓国語を使って進められました。最初のうちはそのレベルの高さに驚きましたが、先生の説明は懇切丁寧なもので、その熱心な教え方がとても好印象でした。講義も、先生の言うことがわからないときは、全員がわかるまで英語やジェスチャーを使って何度も説明してくださるので、わからないままということはほとんどなく、とても充実していたと思います。クラスメイトの中には、大学で韓国語を専攻していたり趣味の韓流で予備知識があつたりと、私よりアドバンテージがある人も多かったです。午前の授業同様そのハンディが原動力となってやる気に繋がりました。

後半1時間の授業は、教科書からその先の応用まで含めた、リスニング、ライティング、リーディング、スピーキング等、すべてをおこないました。こちらは前半の2時間よりさらにレベルが高いように思えました。こちらの先生もまたすごく素敵な先生で、前半の先生以上に韓国語だけを使って教えようという意思が感じ取れ、身振り手振りをたくさん使いながらプリントやスライドなどの教材を使用して授業をおこなっていました。前半で学んだ文法を使いながら読み書きからゲームまで様々なことをしましたが、前半よりも先生が使う語彙や新出単語が増え、私は先生の言うことやスライドに書いてある言葉などをメモすることに必死でした。課題も毎回出されたので、授業が終わり寮へ戻ってからも、その日の授業の復習をひと通りおこない、教科書やウェブサイトにも力を借りながら、ときにはルームメイトと協力して、課題に取り組みました。

今回、短期間ながらも韓国語の初歩を学んでみて、苦労したことはたくさんあつたものの、久しぶりに外国語を学ぶ楽しさを味わうことができました。大学受験期などに取り組んでいた英語は嫌で仕方なかったのですが、英語学習の入口は、この3週間の学びのように楽しい気持ちで学んでいたような覚えがありません。大学で第二外国語として英語以外の言語を学んだこともありますが、今回ほどのしっかり整った環境のもとで勉強ができたことはありません。外国語は、机の上でじっと学ばばかりではなく、その土地へ行って直接肌で感じて学ぶことが大切だと言いますが、まさにそのとおりだと思いました。毎日韓国語演

けでしたが、良い環境と素敵な先生に恵まれたおかげで最後まで頑張ることができ、最終授業では先生から記念品もいただき、これからも継続して韓国語を学びたいという意欲が湧きました。

2.3 ショートビジットで学んだこと

2.3.1 韓国での海外生活における異文化理解

授業時間外、つまり生活面においても、この実習は私にとってとても有意義なものでした。海外での生活は初めてだったので、自国と違った社会・文化の中に身を置くことで、毎日新鮮に過ごすことができました。また韓国に行くのもこの実習が初めてだったので、韓国文化についてもたくさんの気づきがありました。韓国の文化や韓国人の生活様式については、過去に特別に勉強していたわけではなかったため、日本と似ているものが多いとは言え、初めて知ることがたくさんありました。ステイしていた寮の周りは、ミョンドンなどの観光地とは違って住んでいる人のほとんどが現地の韓国人であるような地域だったので、本当に近いところで韓国の文化に触れることができました。韓国の文化については、おもしろく感じるものがたくさんありました。地下鉄の優先席はお年寄りや障がい者ためにつねに開けられていたり、切符がリユースできるものだったり、スーパーによってはビニール袋が有料だったり、日本も学ぶべきであろうこともたくさんありました。しかしその一方で、カルチャーショックも多く受けました。コンビニやスーパーなどの店員は日本ほど接客が丁寧でなく失礼だと感じたし、湯船に浸かる習慣がないために寮の居室にバスタブがついていないこと、お手洗いでトイレトペーパーを流さずにゴミ箱に捨てることなど、小さいことながらも目につくことが多々ありました。それでも、最初のうちはこのような文化の違いがいちいち気になりカルチャーショックとなっていたものの、次第に適応していく自分がありました。例えば日本で友達の家を訪ねたときに、自分の家と違う勝手のものがあっても相手の家に合わせて利用するように、別の文化でそれが習慣とされているならば、それに合わせるのが自然だと感じるようになりました。この変化は、自分としてもとても興味深いものだったと思います。

2.3.2 実習を通じての自分の心境や考え方の変化

私はこの実習に参加するまで、留学に対してとてもネガティブな感情を持っていました。この実習のような短期のものにしても1年間やそれ以上の長期留学にしても、日本での生活を一時放棄し、多くの時間とお金を使ってまでわざわざ海外で学ぶなんてことは、非常にリスクの高いことのように思っていたのです。グローバル化する社会においてこのようなことを思う人は少数かもしれませんが、少なくとも私はそう思っていて、それが足かせとなり思い切って留学するという勇気が持てませんでした。しかし、この実習に参加し日本から離れて日々を過ごしていくにつれて、考えは変わっていきました。日本での普段の生活を犠牲にしても、というのは言い過ぎかもしれませんが、海外で学ぶことや生活することは、そこでの経験や出会いや学び、全てに価値があると感じました。普段の環境とは異なる環境で学ぶことは非常に刺激的で、私は特に人との関わり合いの中でそれを強く感じました。普段日本で生活しているとき、とりわけ大学の中では、自分と似たような人ばかりと一緒に過ごすことが多いですが、このようなプログラムでは嫌でも自分と異なる背景を持った人と関わることとなります。同じ日本から来た学生でさえも、良くも悪くも自分との違いを感じることができ、そのような人と触れ合う中で、得るものがたくさんありました。この海外実習によって、人脈が広がり、視野が広がり、海外で学ぶことがどれだけ有意義なものであるかを知ることができました。

3.まとめ

もとはといえば消極的な理由で参加したこの韓国での実習でしたが、終わってみると心から行ってよかったと思えるものでした。海外生活は初めてで、授業は難しく、英語はうまく喋れず、私としてはとても背伸びして臨んだ三週間でしたが、そんな厳しい環境に自ら飛び込んだことで、自分なりに努力し、少しは成長できたのではないかと思います。新しい学びがあり、新しい出会いもあり、たくさんの貴重な体験を通して、かけがえのない思い出も作ることができました。しかしもちろん、反省するところもたくさんありました。自分の英語力や生活力のなさから友達に頼ることもしばしばでした。日本人学生が多かったことも甘えの一因だったかもしれません。ここまで長々とこの実習を通して得られたことをたくさん述べてきましたが、改めて振り返ってみると得ることができなかったことや逃げていたことのほうが多かったような気もしてきます。もっと頑張れたはず、とさえも思えてきます。そんな反省の意味を込めて、機会があるならば、またこのような海外留学のプログラムに参加してみたいと思います。次こそはもっと自分から積極的にたくさんのことにチャレンジして、自分を磨きたい。このような向上心を強く持てるようになったことが、この実習を通しての一番の収穫ではないかと思います。